

平成30年度 北海道上士幌高等学校 学校評価〔学校関係者評価〕

保護者評価および教職員評価は、4点満点で実施しましたが、このシートでは100点満点に換算しています。

保護者評価と教職員評価を受けて、自己評価（80～A：十分／70～B：概ね十分／60～C：やや不十分／～60D：不十分）し、改善の方策を記しています。自己評価に対する4段階評価を点数化（A→4点 B→3点・・・D→1点）し、その平均値を4段階評価に戻し（3.5以上→A 3.0以上3.5未満→B）しました。

分野・領域	教職員評価 平均値 100点換算	保護者評価 平均値 100点換算	自己 評価	自己評価に対する評価				次年度に向けた改善の方策	改善方策に対する評価			
					人数	平均	評価			人数	平均	評価
学習指導	73.8	77.3	B	A	3	3.18	B	「課題等により生徒の家庭学習の習慣化を図り生徒が自主的に学ぶ力を育てようとしている」については昨年度に引き続きCである。 - 学習するメリットを生徒に感じさせるための工夫が必要。 - 学力差に応じた学習課題の作成と活用について研究する。 - 家庭学習にこだわらず学習時間を増やすことも必要。 - 町との連携も含め、放課後学習のシステムを再構築する。 5については昨年度より0.64高くなった。 - 相互参観の時間を確保と参観後のグループワークを継続する。	A	3	3.18	B
				B	7				B	7		
				C	1				C	1		
				D					D			
生徒指導	76.5	78.3	B	A	4	3.27	B	「日常的に行動観察や面談、カウンセリング等を通じて生徒理解に努めている」については昨年度より0.25低くなった。 - 授業における観察シートを積極的に活用する。 - 面談週間を年度当初に設定する。 - スクールカウンセラーを積極的に活用する。 - 生徒会行事でリーダーの育成をより意図的に行う。 - ゆる部活など、通常とは異なる部活の在り方を検討する	A	3	3.27	B
				B	6				B	8		
				C	1				C			
				D					D			
進路指導	78.3	80.8	B	A	4	3.36	B	1年間に全員が1資格は必ず受検するなどの目標を立てる。 「3年間の系統だった進路指導を分掌主導で展開している」については昨年度より0.50高くなった。 - 生徒が進路行事相互の関連性を意識しながら3年間を見通して進路学習に取り組めるよう、進路行事の配列を見直し、系統的な進路指導を展開する。	A	5	3.45	B
				B	7				B	6		
				C					C			
				D					D			
健康安全指導	83.0	80.0	A	A	6	3.55	A	「日常の清掃活動や委員会活動を通じ、公共心や環境保全の意識を涵養している」については昨年度より0.27低くなった。 - 教員間の情報共有と連携を土台に、生徒へ根気強く働きかける。	A	4	3.27	B
				B	5				B	6		
				C					C	1		
				D					D			
学校運営	80.3	83.3	A	A	3	3.18	B	- 生徒に身につけさせる力を明確化する。 - 職員全体の学校運営に関する参画意識を高める。 「優先業務及び退勤時刻の意識化、業務外業務の削減等、時間外勤務の縮減に努めている」については全項目の中で2番目に低い評価であった。 - 特定の職員の勤務がかさまぬように業務分担を適切に行う。 - ライフワークバランスに関する校内研修を行う。	A	2	3.00	B
				B	7				B	7		
				C	1				C	2		
				D					D			